

育ちと学びをつなぐ～市町村と幼保小との協働による円滑な接続の推進～


乳幼児期の教育・保育と小学校教育との円滑な接続のためには、市町村教育委員会及び就学前施設担当課と園・小学校で「架け橋期に期待する子ども像」を共有し、架け橋プログラムの実施を通して協働しながら「子どもの育ちと学びをつなぐ」ことが重要です。市町村と幼保小の組織的な連携の下、互恵性のある交流活動、相互参観や協議の充実を図るとともに、育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとして、子どもの育ちと学びを共有し、相互理解を図ることが、子どもの生涯における学びや生活の基盤をつくることにつながります。

幼保小連携の更なる充実に向けて【園と小学校の協働的な取組】

I 幼保小の協働による組織的・計画的・継続的な連携のポイント

- 計画、実践、評価等に生かすための園と小学校で語り合う機会の確保（年間計画への位置付け）
- 幼保小連携を組織的・計画的・継続的に進めるための組織体制の見直し（分掌の明確化）
- 幼保小連携年間計画の内容の充実に向けた見直し・検討（子どもの視点での振り返り等）
- 保育・授業参観における視点の共有（「架け橋期に期待する子ども像」に迫る共通の視点等）
- 各種計画の見直し・改善（架け橋期のカリキュラム、スタートカリキュラム、指導計画等）

II 幼保小連携の一年間の取組内容（例）

月	連携の内容	内容の充実を図るポイント
4 5	<ul style="list-style-type: none"> ○幼保小連携計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・連携組織及び内容の確認 ・「架け橋期に期待する子ども像」及び架け橋期のカリキュラムの内容等の共通理解 ・園と小学校で育みたい資質・能力についての協議 ○保育・授業参観の視点の確認 ○スタートカリキュラムの実践における子どもの姿を踏まえた協議 ・子どもの姿からスタートカリキュラムを改善するための協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長・校長のリーダーシップの下、互いの職員が協働して子どもの育ちを支えていこうとする意識の醸成（全職員による各種計画や架け橋期のカリキュラムの共通理解） ・「架け橋期に期待する子ども像」の明確化 ・相互参観の日程確認や調整、協議への参加者の決定等、見通しをもった幼保小連携計画の作成 ・スタートカリキュラム実践期間における子どもの姿を基にした「育ちと学びをつなぐ」視点での協議
6 9 12	<ul style="list-style-type: none"> ○保育・授業参観、研究協議会への参加  p.4 ○園と小学校の合同研修会への参加 ○園や小学校での交流活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を明確にした保育・授業参観、協議 ・園での経験を生かした生活科を中心とする授業づくり ・園と小学校双方のねらいを明確にした交流活動
1 3	<ul style="list-style-type: none"> ○一日体験入学 ○子どもの育ちの共有による、スタートカリキュラムの見直し・改善 ○各種計画や架け橋期のカリキュラムの実践についての評価及び改善に向けた協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校生活への期待感をもたせるための工夫 ・子どもの育ちの共有と、保育者の意見を反映させたスタートカリキュラムの見直し・改善 ・次年度に生かす評価及び改善に向けた内容の検討 ・「架け橋期に期待する子ども像」の具現化に向けた取組についての協議

III 幼保小の協働による取組の評価の視点（例）

- 園・小学校の全職員で育ちと学びについて共通理解を図り、園と小学校の協働により、「子どもの育ちと学びをつなぐ」取組を進めることができたか
- 「子どもの育ちと学びをつなぐ」取組により、子どもの理解を深めることができたか
- 子どもの視点に立った連携計画を立案し、実践ができたか
- 園・小学校双方に互恵性のある取組が意図的・計画的に実施されたか
- 園・小学校の実態に応じた取組を工夫し、必要感のある取組となったか



IV 幼保小連携の取組についての参考資料・動画等

○幼児教育の重要性・遊びを通じた学び

- ◇〈動画〉遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”
- ◇幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？
(幼児教育及び小学校教育関係者向けの参考資料)
(文部科学省のWebページ)



- 乳幼児期の教育・保育の理解啓発リーフレット「就学に関わるみなさまへ」
もうすぐ1年生
～育ちと学びを未来につなぐ～
- リーフレット説明動画
(美の国あきたネット「わか杉っ子元気に！ネット」のWebページ)

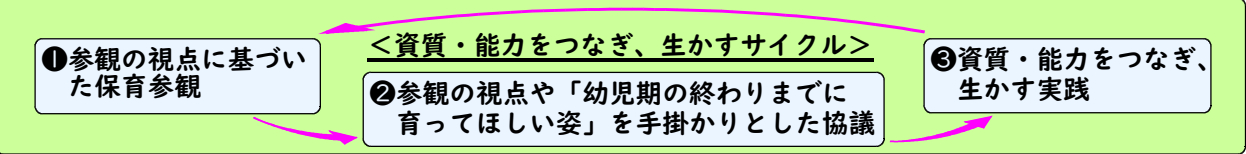
○「幼保小の架け橋プログラム」について

- ◇秋田県版架け橋期のカリキュラム開発に関するガイドライン（初版）及び市町村版架け橋期のカリキュラム(例)について
- ◇「幼保小架け橋プログラム」参考資料について
(美の国あきたネット「わか杉っ子元気に！ネット」のWebページ)



資質・能力をつなぎ、生かす取組の実際

子どもの育ちや指導の意図を深く理解するためには、共通の視点に基づいた保育・授業参観や協議を行うことが大切です。参観・協議を重ねることで、園で育まれた資質・能力を小学校へつなぎ、生かすサイクルが構築され、互いの教育・保育の更なる充実を図ることができます。




① 参観の視点に基づいた保育参観 (下線は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連・数字は保育の「PDCAサイクル」と対応)

【参観の視点】

- 何に興味や関心をもっているのか、何を感じているのか
- どのような力が育とうとしているのか(「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに)
- 育ちを支える環境の構成と保育者の援助について




地域の祭りに参加したことから興味が広がり、子どもたちは、様々な出店に必要なものを作ったり、作ったものでお店屋さんごっこをしたりして遊んでいる。必要なものを作り進めていく中で「ラーメンの具を増やしたい」「麺をゆでたり、食器を洗ったりするコーナーを作りたい」という声から、役割を決め、友達と関わり合いながら、工夫する姿が見られた。「お店屋さんならお金や財布があると便利だね」「それを入れるバッグもあるといいよね」というアイデアを基に子ども同士で対話をしながら、協力して活動することを楽しんでいた。完成したことを喜び合っていたが、お金のやり取りがうまくいかないことに悩み始めた。友達に尋ねたり相談したりしながら何度も試すことで、よりよい方法を見いだそうとしていた。(子どもの遊びの一例)




② 参観の視点や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした協議

【協議の目的】

- ①子どもの姿から、今後どのような経験が必要かを理解したり、どのような援助を工夫したりしていくかを検討し、育ちと学びをつなぐ保育実践に生かす。
- ②小学校での生活や学習の具体的な場面を想起し、育ちと学びのつながりの理解や指導に生かす。

 <p>【自立心】</p> <p>興味をもったことから遊びが始まっているので、自分の力で諦めずにやり遂げようとする姿が見られました。考えたことが実現していくような環境が構成されていくため、進んで挑戦することで達成感を味わうことができたと思います。粘り強く取り組む姿勢は今後の生活に生きてくるはずです。</p>	 <p>【協同性】</p> <p>友達と思いや願いを共有しながらよりよい遊びを作り上げるために工夫したことが、一層の充実感を味わうことにつながっていました。目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力する場面を見取り、価値付けることによって、今後、自ら関わろうとする姿が随所に見られるようになるでしょう。</p>	 <p>【言葉による伝え合い】</p> <p>よりよい方法を探るため、これまでの経験や考えを伝える姿が見られました。伝え合う楽しさを得られるような援助を工夫していくことで、互いの思いや願いを認め合って一緒に活動しようとする気持ちが高まっていくと思います。相手の状況に応じて関わろうとする態度も養われていくものと感じています。</p>
--	---	--

③ ②の協議から資質・能力をつなぎ、生かす実践



- ・自己発揮しながら、自ら学びに向かうことができるように、一人一人の子どもの思いや願いを引き出す問い掛けをしたり、子どもの実態に応じたコーディネート工夫したりします。
- ・子ども同士で考えを出し合うよさを実感できるように、考えを伝え合う過程を見取り、価値付けするとともに、互いのよさを認め合いながら活動できる場を設定します。
- ・子どもが考えの共通点や相違点に気づき、多面的に考えていくことができるように、自ら選択したり、試したりすることができる環境を整えます。

幼保小関連事業

月 日	事 業 名	対 象	会 場
7月29日(水)	就学前・小学校等南地区合同研修会	美郷町、羽後町の就学前施設教職員・小学校教員・教育委員会及び就学前施設担当課担当職員等	美郷町中央ふれあい館